



WORKWITHPLUS
FOR NATIVE MOBILE

リリースノート

バージョン:	15
更新日:	2022年6月15日
互換性:	GeneXus 17 Upgrade 9 以降



WorkWithPlus for Native Mobile 15	3
新機能	4
Web と統合された開発エクスペリエンス	4
デザインシステム	6
Design System オブジェクト	6
コンポーネント	7
採用	11
WorkWithPlus for Native Mobile 15 への KB の更新	11



WorkWithPlus for Native Mobile 15

WorkWithPlus for Native Mobile 15 は、以前は SmartDevicesPlus と呼ばれていた **WorkWithPlus for Native Mobile** の最新リリースバージョンです。

2022 年 6 月 16 日にリリースされました。

GeneXus 17 Upgrade 9 から利用可能です。

WorkWithPlus for Native Mobile 15 は、最新の GeneXus の機能と技術トレンドを適用することで、優れた UX を備えた強力なモバイルアプリケーションをより簡単に開発できるようにすることを目的としています。

この新しいバージョンでは、新しい既定のデザインを使用できるようになるだけでなく、「デザイン システム ウィザード」を使用することでデザインのカスタマイズの柔軟性が大幅に向上します。

新しい強力なユーザーコントロールと機能を備えた、優れた画面を作成できるようになります。また、GeneXus での開発方法をさらに簡単にすることで、開発エクスペリエンスがより向上しています。



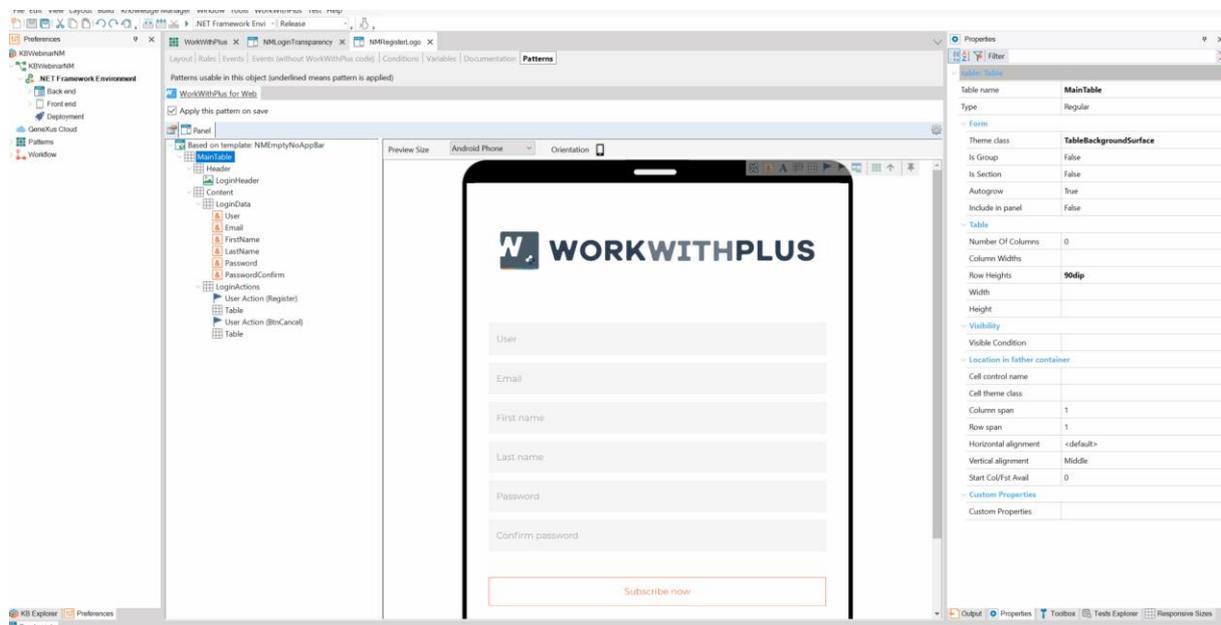
新機能

Web と統合された開発エクスペリエンス

WorkWithPlus for Native Mobile 15 では、開発エクスペリエンスが WorkWithPlus for Web と統合されています。そのため、階層ツリーとリアルタイムプレビューを使用した開発、WorkWithPlus for Web のほとんどの機能の継承、インスタンスの更新とイベントブロックでのテンプレートの使用、WorkWithPlus のコンポーネントのすべての機能の使用が可能になります。

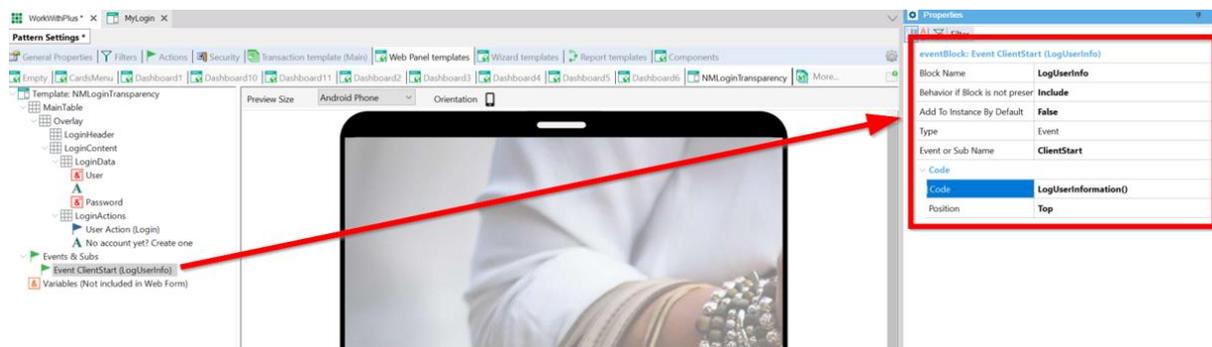
この改善により、WorkWithPlus を使用した Web アプリケーションの開発からネイティブモバイル アプリケーションの開発への移行が自動的に行われるようになり、両方の製品で同じように作業ができるようになります。

次の画像では、WorkWithPlus for Native Mobile 15 の開発環境を示しています。

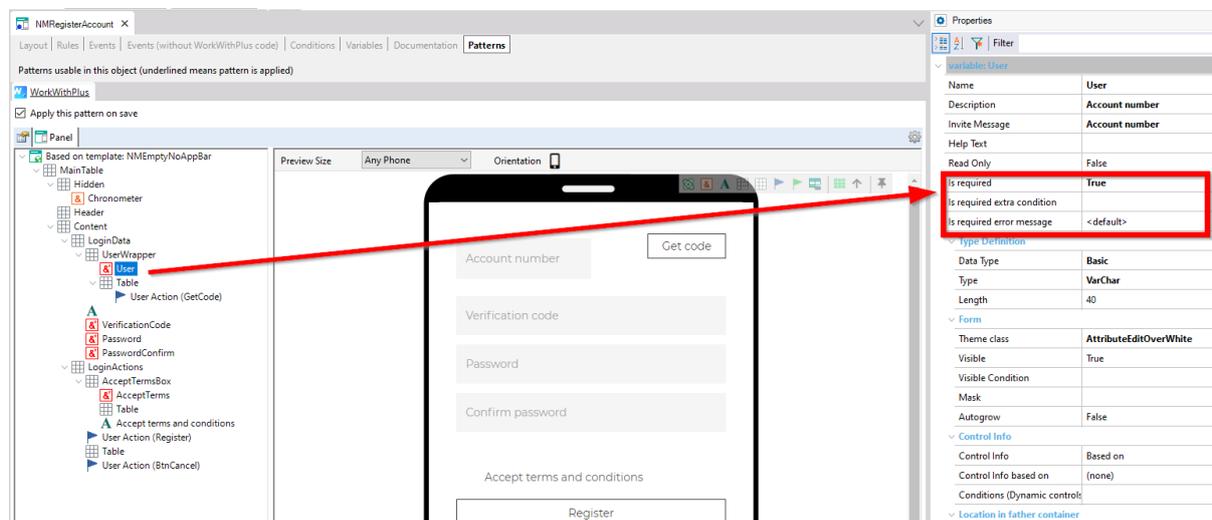




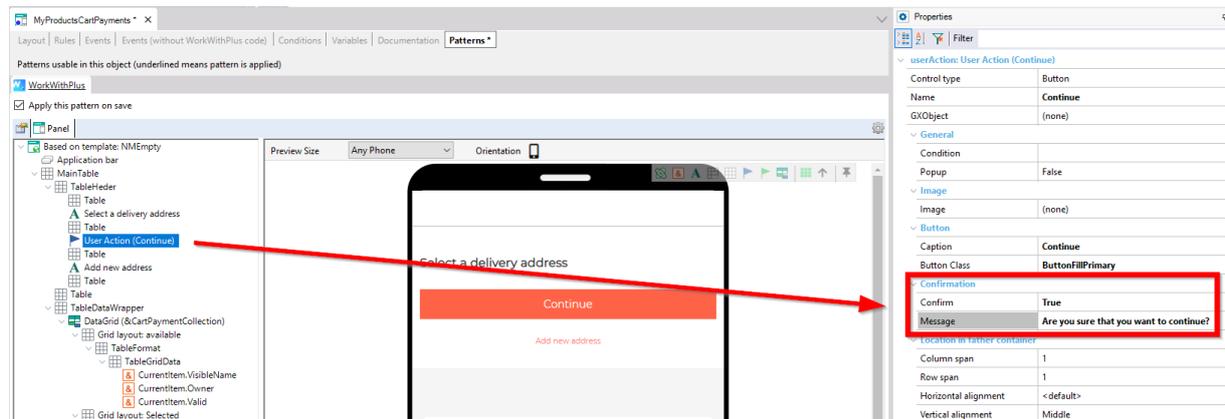
すべてのテンプレートが新しいメカニズムに移行されたため、各テンプレートでイベントブロックを定義し、インスタンスを更新することができます。次の画像では、テンプレートのイベントブロックを示しています。



使用できるようになる機能の例として、必須の項目属性と変数があります。エレメントの [Is required] プロパティを [True] に設定するだけで、WorkWithPlus for Web でのこの機能 (標準化されたメッセージを備えた検証を含めて、必須のものを区別するためにパネルに別のクラスを設定する) と同じ効果が得られます。



他にも、パネルでアクションを定義するときに、そのすべてのプロパティ (キャプション、GXObject など) を設定できるようになります。また、確認メッセージを定義して、エンドユーザーが確認した場合のみアクションを実行することもできます。

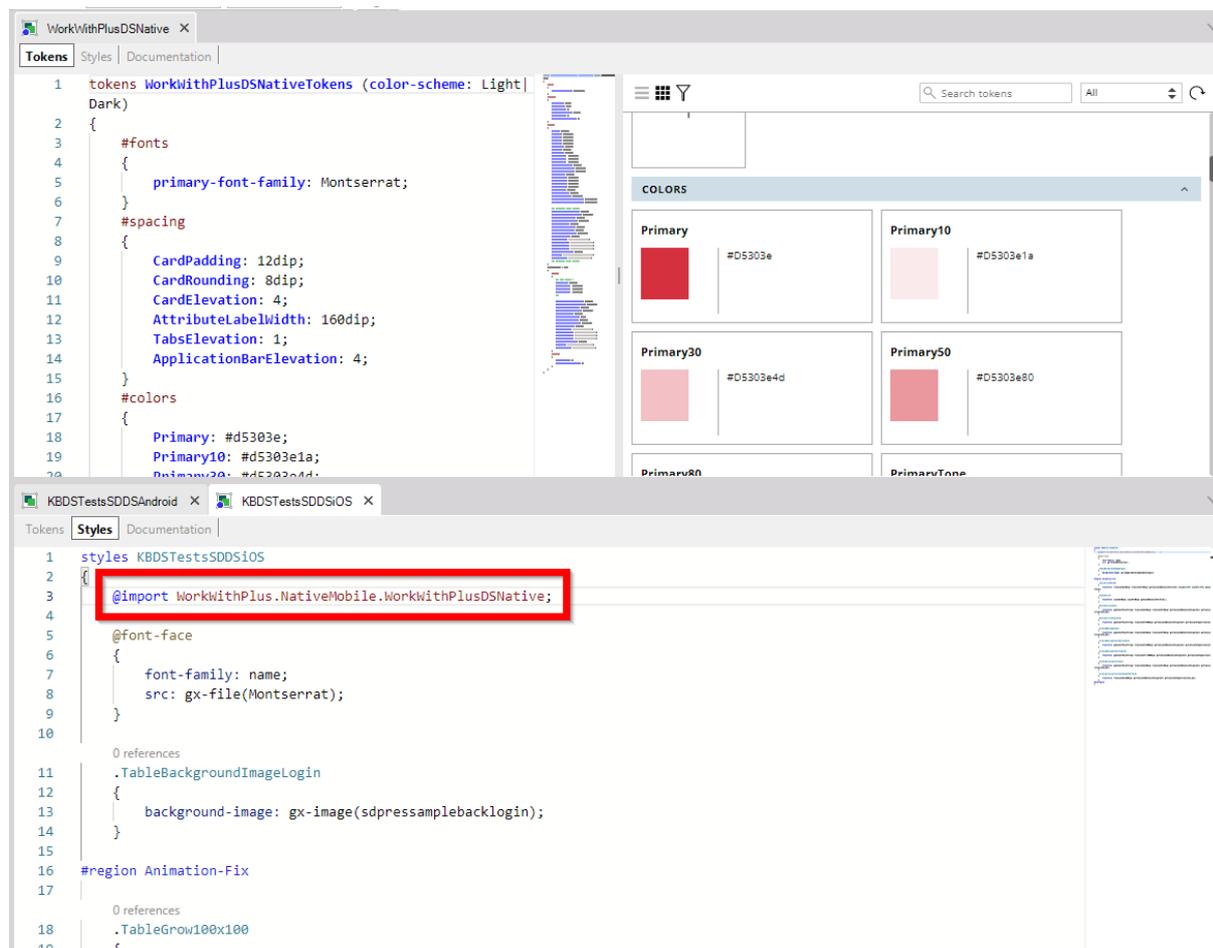


デザインシステム

Design System オブジェクト

WorkWithPlus for Native Mobile 15 からは、すべてのデザインシステムが Design System オブジェクトに基づいています。

そのため、KB に 3 つの Design System オブジェクトが作成されるようになります。1 つのオブジェクトにはすべてのベースクラスと WorkWithPlus for Native Mobile のレイアウトが含まれており、残りの 2 つにはプラットフォームごとのカスタマイズを追加できるため、バージョンを移行するときに、<KBName>iOS オブジェクトおよび<KBName>Android オブジェクト内のカスタマイズ内容が失われずに、ベースクラスが最新の状態に保たれます。



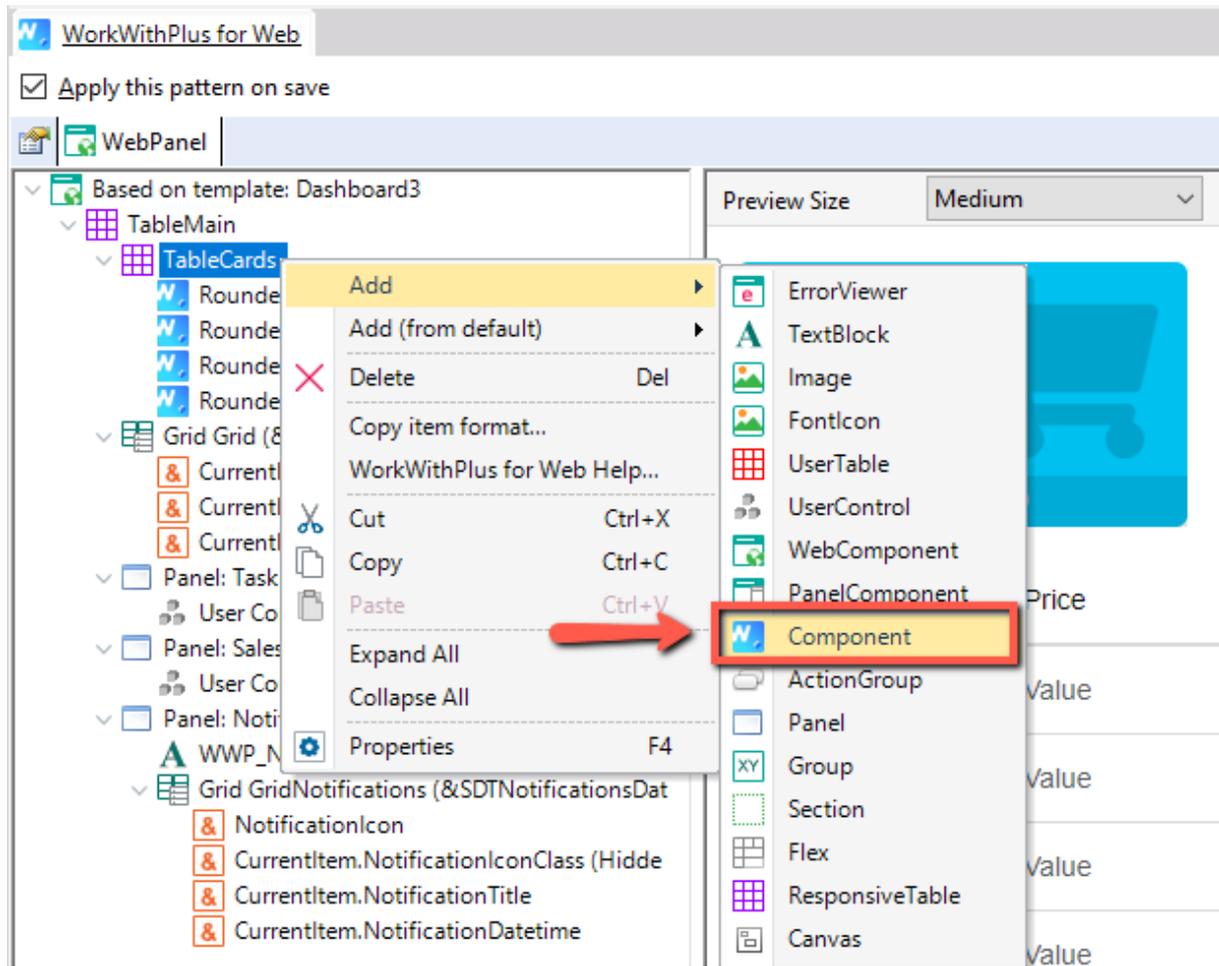
コンポーネント

優れたユーザーエクスペリエンスでモバイルアプリケーションを開発できるように WorkWithPlus に用意されているすべてのエレメントを活用するには、それらを再利用して、日々の作業を単純化します。WorkWithPlus for Native Mobile 15 にはコンポーネントという新しいエレメントが用意されています。これらのコンポーネントは、ビジュアルパーツ (インスタンスの一部) で構成されていて、イベントブロックと定義済みの変数を関連付けることもできます。

そのため、パネルで Stencil を使用する代わりに、より柔軟で、関連付けられたユーザーコードを含めることができ、カスタマイズ可能なコンポーネントを含めることができます。WorkWithPlus for Native Mobile のバージョン 7 で用意されていたすべての Stencil は、コンポーネントとして含まれるようになりました。また、独自のコンポーネントを作成することもできます。

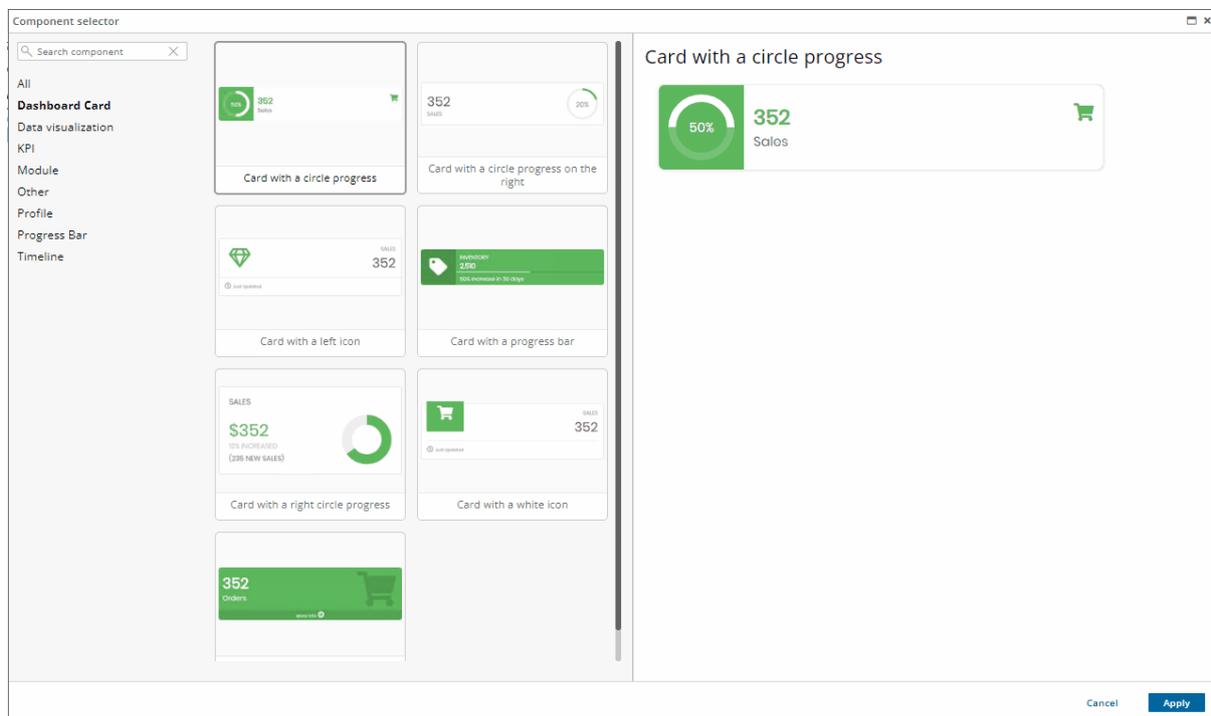


使い方は非常に単純で、コンテナを右クリックして [追加] -> [Component] を選択するだけです。

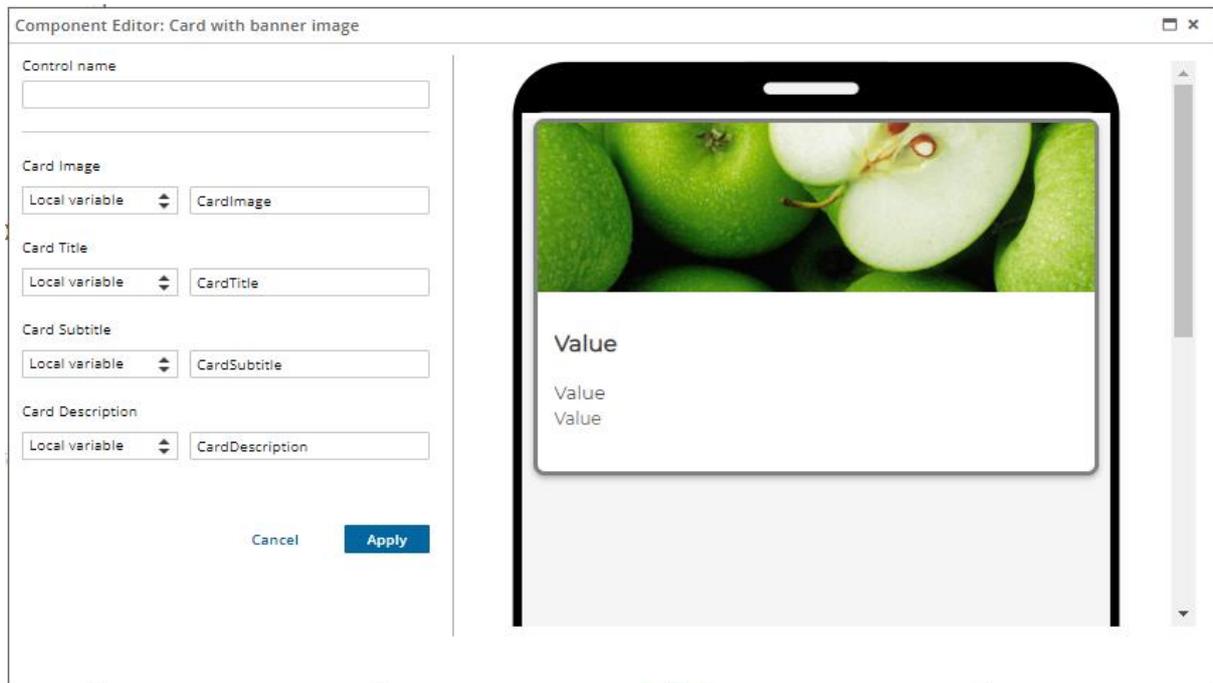




コンポーネントセレクトが開きます。



各コンポーネントには独自のバリエーションとカスタマイズがあるため、追加するコンポーネントを選択した後、コンポーネントをカスタマイズします。



また、コンポーネントに用意されていないカスタマイズを行う場合は、コンポーネント定義を変更するか、作業中の Web パネルでカスタマイズすることができます。

WorkWithPlus には、コンポーネント間の 50 を超えるバリエーションと、Web および Native Mobile 用のカスタマイズが含まれています。また、独自のコンポーネントを作成して、KB 全体で使用することもできます。



採用

WorkWithPlus for Native Mobile 15 への KB の更新

このバージョンでは、WorkWithPlus for Native Mobile での作業方法に細かな変更が加えられています。これは、エディターとそのリアルタイムプレビュー（および、その他の多くの機能）を利用できるようにして、WorkWithPlus for Web と同じ開発エクスペリエンスを使用できるようにするために行われています。そのため、バージョン 7 で提供されている階層エディターを使用する代わりに、インスタンスとコンポーネントを使用して作業します。

その結果、新しいバージョンをインストールすると、バージョン 7 のテンプレートと階層ツリーが使用されているプロジェクトがある場合は、これらのメカニズムは同じ方法では提供されなくなります。リアルタイムプレビューを備えた新しい IDE と、インスタンスで作成されたテンプレートが使用されるようになるためです。デザイン システム ウィザードを実行し、新しいメカニズムを使用してパネルを作成する必要があります（以前のパネルはそのまま残りますが、階層ツリーがありません）。そのため、既存の KB での新しいバージョンへの移行は、シナリオ（たとえば、プロジェクトのステータス）ごとに異なります。

特定のプロジェクトではバージョン 7 を引き続き使用しながら、WorkWithPlus for Web 15 に移行する場合は、次の手順に従う必要があります：

- WorkWithPlus for Web and Mobile 15 のセットアップを実行する
- WorkWithPlus for Native Mobile 7 のセットアップを実行する